

令和7年度

赤羽根の里だより



茅ヶ崎市立赤羽根中学校 学校便り 令和8年2月19日(木)

校長 高橋 励



～保護者の皆様へ～

ご存じですか？ PINK SHIRT DAY

茅ヶ崎サザンCが今日から28日(土)までピンク色にライトアップされるそうですが、ご存じでしたか？神奈川県でも2月をピンクシャツデー月間としていじめストップへの意思表示を呼びかけています。

赤中でも、「茅ヶ崎市いじめ防止サミット」(9月1日号掲載)に参加した学校代表(先代の生徒会本部役員)が「タネ」となって、「まるくならうころから」というキャッチフレーズで、朝から「ピンク色の生徒会本部役員」になってアクションを起こしていましたが、今回、世の中の「ピンクシャツデー」(2月最終水曜日)にちなんで生徒会本部として「ピンクシャツDAY」を企画し呼びかけています。



校内のポスターにも書かれていますが、

- ①「1人1人の行動や言動でいじめを止め、側もしてしまう側にもなる」ということへの理解を深めて、自分の行動・言動を考えるキッカケにする。
- ②全ての生徒の個性を認め、全ての生徒が安心して通える学校を作っていく。

が、この企画の目的。そして、「ピンク色」を身に着けるといふアクションで「このメッセージに賛同するよ!」と発信することで、いじめが起りにくい雰囲気を作っていかうとしています。夏に持ち帰ってきた「タネ」がどんなピンク

色の花を咲かせるのか楽しみですが、これを機にご家庭でも次ページ「規範意識に関する質問」とあわせて話題にしてみてください。れば幸いです。

赤羽根中 生徒の活動の記録

《剣道部》

第23回茅ヶ崎地区剣道初心者錬成会

2月7日(土) 寒川町立寒川中学校

男子個人の部

優勝 金子 瑛

女子個人の部

優勝 北澤 真咲

第3位 常木 風花

敢闘賞 鈴木 緒・小河原 縁・山本 明咲

《第71回青少年読書感想文全国コンクール》

自由読書部門 毎日新聞社賞(優秀作品)

福永 結月(3年)



2月2日号でも神奈川県審査会結果として紹介しま

したが、今回は全国です!

2月10日(月)の毎日新聞にも掲載されてきました。

読まれた本がどんな作品か気になるあなたに情報です。学校司書さんにお問い合わせして本を取り寄せてもらいました。手に取ってみてはいかがでしょうか?



令和7年度全国学力・学習状況調査結果からみえる本校の状況

※学校個別の結果数値は公表しておりません。

茅ヶ崎市教育委員会の資料を併せてご参照ください→



中学校

【教科に関する調査】

国語

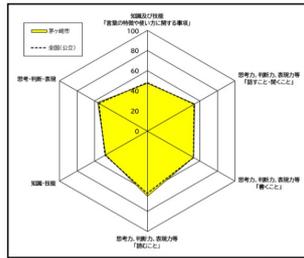
平均正答率 (%)	全国	神奈川県	茅ヶ崎市
	54.3	55	55

○知識及び技能、思考力・判断力・表現力等に関する各領域の正答率は、全国とほぼ同程度です。その中で、「読むこと」の領域は、全国平均をやや上回っています。

●思考力・判断力・表現力等における「書くこと」について、読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることに課題が見られます。(漢字の間違いを修正する設問:専門的→専門的)

【学習に当たって】

書いた文章を見直す際に、伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、文字や表記が正しいか、漢字と仮名の使い分けが適切かなどを確かめて文章を整えること、日頃から書いた文章を読み返す習慣を身に付けるとともに、読み返す際には、既習の事項を生かして文章を整えることが大切です。(国立教育政策研究所報告書を参考)



(国語)

平均正答率は県・市をやや上回り、正答数分布は全国・県と同傾向でひとこぶの山型グラフとして表れている。

(数学)

平均正答率は県・市を上回り、正答数分布は概ね全国・県と同傾向でふたこぶの山型グラフとして表れている。中央値は県・全国よりも高い。

(理科)

平均 IRT スコアは県・市と同程度。個人の IRT スコアの分布傾向は全国・県とほぼ同様。

数学

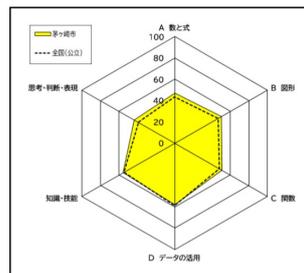
平均正答率 (%)	全国	神奈川県	茅ヶ崎市
	48.3	51	51

○「A 数と式」「B 図形」「C 関数」の領域は、全国平均をやや上回っています。○領域「B 図形」における、統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善できるかを問う設問では、全国平均を上回っています。

●領域「D データの活用」において、相対度数の意味の理解に関する設問では、やや課題が見られます。

【学習に当たって】

ある階級の度数が、全体に占める割合を求めて、データの分布などの特徴を読み取る活動や、大きさの異なる2つ以上の集団を比較する活動を通して、相対度数を用いることの必要性と意味を理解できるようにすることが大切です。(国立教育政策研究所報告書を参考)



理科

平均 IRT スコア	全国	神奈川県	茅ヶ崎市
	503	510	515

※IRTスコア:IRT(項目反応理論)に基づいて各設問の正誤/パターンの状況から学力を推定し、500を基準とした得点で表すもの。
※公開問題と非公開問題を組み合わせて構成。公開問題には全日程に共通する問題と実施日により異なる問題がある。同じ調査日に実施する生徒は同じ公開問題のセットを解く。

○実施日によって問題は異なるものの、全国の平均正答率と比較すると、領域「エネルギー」、「粒子」、「生命」はほぼ同程度であり、領域「地球」は上回っています。

○気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかを問う設問では、全国平均を大幅に上回っています。

●領域「生命」における植物の茎の横断面や根の構造に関する設問では、全国平均を下回っています。

【学習に当たって】

身近な植物の外部形態や内部形態の観察を行い、観察記録などに基づき、共通点や相違点があることを見いだして、植物の体の基本的なつくりを理解することが大切です。身近な双子葉類と単子葉類の外部形態である根や葉のつくりと、内部形態である茎の断面のつくりを観察し、それらの特徴を捉えるとともに、葉から茎の断面や根のつくりを推測できるようにすることが大切です。(国立教育政策研究所報告書を参考)

【生徒質問紙調査・本校の傾向】

～茅ヶ崎市教育委員会の分析に照らして～

□自己肯定感に関する質問

「自分には、よいところがあると思いますか」

→「当てはまる」と回答した数は、全国・県よりもやや少ない。

□規範意識に関する質問

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」

→「当てはまる」と回答した数は、全国比で10%以上少ない。

□ICT機器の活用に関する質問

「2年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」

→「ほぼ毎日使用している」と回答した数は、全国・県と比べて10%以上多い。

□主体的な学習への取り組み

「2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」

→肯定的な回答は全国・県より多く、ほぼ8割程度で茅ヶ崎市と同傾向。

学習状況については、全体としては「概ね満足な状況」といえる。

国語にかかわる項目(44～51)では肯定的な回答をした生徒が県・国と比較して非常に多い(10～25%)傾向が見られた。それと比べると、数学・理科は、学校の学習活動(考える・説明するなど)への意欲や態度への回答では「当てはまる」が県・国よりも多い様子が見られるが、「生活に活かす」・「社会で役立つ」という項目では否定的な回答(当てはまらない)が多く見られる結果となっている。学習することの意味や価値観をどのように育めるかは、今後の授業研究や実践等を通して検討していく必要性を感じている。

【生徒質問紙調査】

～今年度、特に注目した項目とその回答結果～

【学習】

(塾、家庭教師、インターネット活用学習を含む)

(17)「普段(平日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」

(19)「学校が休みの日、1日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか」

→どちらも「2時間以上」の回答が6割を超えていて、
県・国と比べてその割合は非常に高い

(20)「学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか」

→「学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を教わっている」を選んだ割合が4割を越えている一方、「学校の勉強でよく分からなかった内容を教わっている」の割合は県・国に比べて低い。

(38)「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」

→「あてはまらない(どちらかといえば、を含む)」の回答が県・国と比べて若干割合が高く2割を越えている。

家庭での学習時間が多く、学習塾等で学習内容の先取りや難易度の高い内容に取り組んでいる生徒がいる一方、学習内容の習得に困難さを感じながら、それを乗り越える機会や手段を持っていない生徒がいる。そこに配慮しながら、主体的な学びにつながる授業づくりに挑んでいくことが課題である。

【生活】

(10)「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」

→肯定的な回答の割合は、県・国との比較ではやや低く、「当てはまらない」が県・国(1割弱)のおよそ2倍となっている。

(14)「友達関係は満足していますか」

→否定的な回答が国(1割弱)のおよそ2倍となっている。

友達との関係で困りを感じ、それを抱えたまま日々を送っている生徒が一定数いるなかで、学校の大人がその困りごとや不安を十分に把握しきれていない状況にあることが考えられる。困りに向き合うことは精神的な成長を促す糧にもなる。「学校にいる大人」がその成長への支援を心がけるとともに、子どもが経験の中から自ら必要な支援を求める方法を学べるよりよい環境を整えていきたい。

【まとめとして】

この調査は、現3年生の4月時点での状況を切り取ったもので、本校の現状や全体をそのまま表すものではありませんが、ここまでに取り上げた項目も含めて、整理します。

茅ヶ崎市教育委員会の分析とも関連するICT機器・環境の活用についての項目(29-1~4)では「とてもそう思う」が県・国を1~2割程度上回っています。また、「主体的・対話的で深い学び」に関連する各項目(31~37)の回答も多くが肯定的で、生徒の学習を支えるICT活用スキルや、探究に向かうための協同的な学び方を身につけてきていることがうかがえます。

家庭学習への取り組み方等により、学校の授業に向かう子どもたちが立っているスタートラインは決して同じとはいえない面はありますが、「一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする」(「中学校学習指導要領」より)ために必要な「学びの場」を提供することが、公立学校として本校の使命であると考えています。学校運営協議会や授業研究をはじめとする小和田小学校との連携を通して、9年間の学びのつながりも意識しながら、今後も改善に取り組んでいきたいと思っております。各ご家庭や地域の方々のお力添えをお願いできれば幸いです。(文責：赤羽根中学校長)

Dear 1, 2年生諸君!

3年生、かく語りき

今週17日(火)から神奈川県立高等学校の入学選抜の学力検査(=いわゆる公立高校入試のこと)が始まり、全日制の課程(=中学校までと同じように昼間に通う高校)の受検は今日まででひとまず(まだ、この後に定時制・通信制の課程の選抜などもある)ひと区切り。受検をした3年生は、ここから27日(金)までは結果発表を待つ時間。そして、3週間後にはもう卒業して赤中にはいないんですね。

さて、2月2日号でも少しふれた、わたしと3年生との面接の話題を再び。「今の1, 2年生の誰かの姿と重なるかもしれない」と思いながら、一人ひとり違う個性の中学生在が赤羽根中学校でどう成長してきたのか話を聴かせてもらっているのですが、ある3年生のワークシートに書かれていたこんな回答に目がとまりました。

Q:あなたが一番尊敬している人や感謝を伝えたい人は誰ですか。また、どうしてそう思いましたか。

A:一番感謝を伝えたいのは私の友達です。私が落ち込んでいるとき、そのとき一番欲しかった言葉をくれたのも、話を聴いてくれなくても、一緒にいてくれるだけで、悩みがふきとびました。思春期の私たちにとって、中学校生活は考えないといけないことがたくさんありましたが、私のことを理解してくれた人がそばにいてくれたおかげでのりこえてこられました。

ちなみに、尊敬・感謝をしている人に一番登場するのは全体としては圧倒的に“お母さん”や“親”(集計したワケではなくて、あくまで印象です。ときおり赤中の先生の名前が登場するとホッとしている校長です)。

これまでの面接のなかで3年生に“小学生から中学生になって何が大きく違った?”と訊いてみると「忙しくなった」、「勉強やテスト

が難しくなった」、「進路や成績のことを心配するようになった」、「人との関係が複雑になった」などが多く、毎日の学校生活を送る中で「考えないといけないことがたくさんあった」のは、先の回答を書いた人だけの感想ではなさそうです。あなたも同じですか? 前号の学校だよりで、中学校3年間で「楽しんで来たことばかりではなかった」と語る3年生が少なからずいることに触れながら「それも含めて成長にとって大切な時間だったのかも」と書きましたが、それを乗り越えていくときに支えてくれたのは“ともだち”・“なかま”の存在だった、と語る人はけっこういます。今のあなたはどうですか?

実は、前のページに載っている「相談」と「友達関係」の回答数の結果で私が気になったのは、友達関係に悩んでいるけれど、相談できる大人が学校には見当たらない、と思っている人がいるかもしれない、ということ。そして、その人も、家族や地域・近所の人に支えてもらっているといいな、ということ。「思春期」と呼ばれる時期を乗り越えようとしているあなたを支えてくれる人は必ずいると思ってるし、もしかしたら、その人を見つけることが、あなたを成長させてくれる大切なミッションなのかもしれない。

卒業を前に次のステージを思い描く3年生の中には“自分のことを知らない人たちの中に飛び込んで、これまでとは違う自分を見つけてみたい”と志願理由を語ってくれる人もいました。たくましい!と思いつつ聞きながら聴きました。

さて、1, 2年生も今日で今年度の定期テストも全て終わり。21日(土)の「ふれあい講座・中学生と大人のつどい」が終わると、令和8年度に向けて一気に時間が加速します。一人ひとり、「考えなければいけないこと」はそれぞれ違ってはいるけれど、思春期には確かにちょっとしんどいこともある。でも、その先には成長が必ずあることを3年生は語っています。みんなでがんばろう!